

みどりの風

2026

3

令和8年

今月の表紙「幸福の白い花咲く頃」(撮影:みろくのそら様)

第13回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品

CONTENTS

- 「令和8年度熊本県農業政策・予算」を要望
- 藤木しんや活動報告
- 参議院議員 藤木しんや氏コラム
- 参議院議員 東野ひでき氏コラム
- 農政連総支部だより(八代)
- 中央会・連合会からのお知らせ

あぜみち

令和7年を振り返ると国内も国外もさまざまな出来事が発生した。ある新聞社が読者に行ったアンケート結果では、国内の10大ニュースのトップは、「大阪・関西万博が開幕」だった。開幕前は、建設費の増額やパビリオンの建設遅れなど、ネガティブな面が注目を集めたが、開幕前の予想をはるかに超える来場者数だった。

僅差で2位になったのは、「クマ襲撃相次ぐ」だった。今年は例年になくクマに人が襲われる被害が相次いだ。被害者数も過去最多を更新した。これを受け、政府は自衛隊や警察の派遣を決め、緊急銃撃が始まった。

3位には「自民党総裁選で高市早苗氏勝利、初の女性首相に」が入った。憲政史上初めての女性首相が誕生した。内閣支持率も70%台という高支持率をたたき出した。

私たちに関係する「コメ価格高騰、政府備蓄米の放出発表」はこれも僅差で4位だった。この出来事も連日TVやネットで世間を賑わせた。

一方、国外に目を向けると、1位は「第47代米大統領にトランプ氏が就任」であった。米国第一主義のスローガンの下、前例のない施策を押し進め、国内外に大きな影響を与えた。

2位は「中国、高市首相答弁に反発、渡航自粛呼びかけ」だった。高市首相の台湾有事に関する存立危機事態になり得ると答弁したことへの反発で、しばらくは鎮静化しそつくない。

3位は「米が相互関税発表 日本24%、中国34%」であった。製造業の国内回帰や貿易赤字の解消を目指すトランプ政権の突然の相互関税発表に世界中が驚愕した。中国に対しては一時期、145%の関税を課すと発表した。この相互関税については米国でトランプ大統領の権限を逸脱しているとして、各地で訴訟が起きている。

他にも「ロサンゼルス山火事や「ループル美術館で盗難被害額8、800万ユーロ」などが上位に入った。

なお、清水寺で発表された令和7年の漢字一文は「熊」だった。

「令和8年度熊本県農業政策・予算」を要望

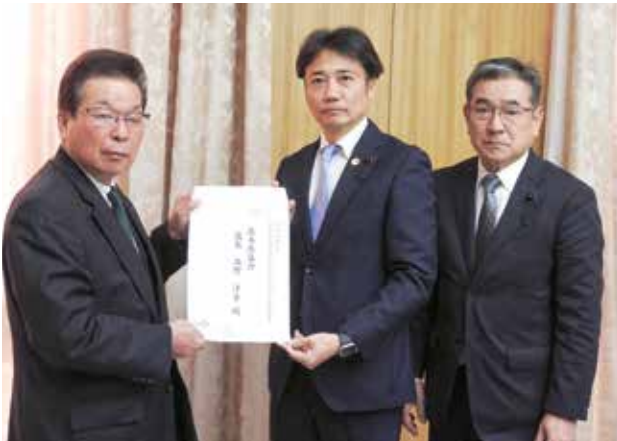
JAグループ熊本と県農政連は12月22日に県知事と県議会議長、自民党県連に対して、令和8年度の農業政策と予算の要望を行いました。

県庁等を訪れたのは熊本県内12農業団体と県農政連の代表者で、農業関連予算では、水田産地化総合推進事業、くまもと土地利用型農業競争力強化支援事業、野菜価格安定対策事業など、59事業におよぶ約195億6,961万円を要望しました。

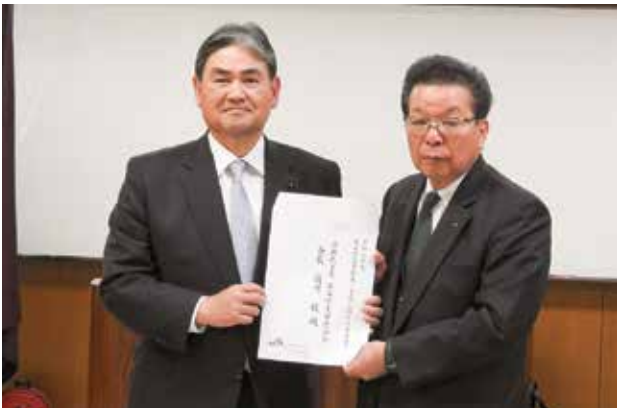
また、農業政策要望においては、「農業構造転換集中対策」に必要な施策を具体化するとともに、持続可能な農業者の所得確保及び経営安定化並びに消費者への安全・安心な県産・国産農畜産物の安定供給の実現を図るよう求めました。また、既存のセーフティネットを組み合



▲木村敬知事へ要請を行うJAグループの代表者



▲高野洋介熊本県議会議長(中央)と緒方勇二副議長(右)に要請書を手渡す宮本隆幸会長



▲自民党県連の前川収会長(左)に要請を行う宮本隆幸会長

わせても補いきれない生産資材価格の高止まりに対応し得る対策の充実を求めました。その他の重点項目としては、適正な価格形成の実現と国民理解の醸成・行動変容、環境調和型農業の推進と現場実態に応じた農業技術の普及、「地域計画」の実現に向けた取り組みと中山間地域への支援、共同利用施設の老朽化に伴う再編整備等への支援、半導体関連企業進出に伴う代替農地確保等による営農継続等への対応強化などを訴えました。

JA熊本中央会の宮本隆幸会長は「生産資材の価格高騰が続く中、気候変動による夏場の猛暑、8月豪雨による広域的な農地浸水に見舞われた。新たな食料・農業・農村基本計画が策定され、農業の構造転換を集中的に推し進めることとしていくことから、実効性のある具体的な施策と万全な予算の確保が重要だ」と訴えました。

意見交換では各団体から、8月の大雨被害対応や酪農ヘルパーの人材確保に向けた支援、配合飼料価格の高騰対策、収入保険の補助の継続や重点支援地方交付金の活用、後継者育成に向けた対応を求める声が上がりました。

要望を受け、木村敬知事は「重点支援交付金の要望については、年明けには価格高騰対策や農畜産物の販路拡大に積極的に使っていく。本日の要望をしっかりと受け止めたい」と話しました。

要望書は、熊本県議会の高野洋介議長、自民党県連の前川収会長へも提出しました。

主な重点要望事項

1. 食料安全保障の確保に向けた施策の具体化と万全な予算確保
2. 生産資材高騰対策等の継続・拡充
3. 適正な価格形成の実現と国民理解の醸成・行動変容
4. 環境調和型農業の推進と現場実態に応じた農業技術の普及
5. 「地域計画」の実現に向けた取り組みと、中山間地域への支援
6. 農地の基盤整備、集積・集約化及び遊休・耕作放棄地の解消
7. 生産者向けの補助事業の要件緩和
8. 共同利用施設の老朽化に伴う再編整備等への取り組み支援
9. 半導体関連企業進出に伴う営農継続に向けた対応の強化
10. 土地改良施設の老朽化等に関する必要予算の確保
11. 新規就農者等への支援
12. 労働力確保対策
13. 農業委員会の体制強化
14. 品目別対策
 - ① 水田・畑作農業政策
 - ② 畜産・酪農政策
 - ③ 園芸・果樹政策

参議院議員

Fujiki Shinya
activity report

藤木しんや

活動
報告

農家の声を
国政に!



4つのVision

- ① 生産現場からの声を国政に届け、実現します
- ② 食料安全保障の強化の実現を目指します
- ③ 中小・家族経営、中山間地農業への更なる理解と支援の拡充に取り組みます
- ④ 地域の拠り所であるJAの取組を後押しします

これまでの主な役職

- ・農林水産大臣政務官(2回)
- ・自民党 農林部会畜産酪農対策委員会事務局長
- ・農林部会長代理
- ・農林部会 野菜・果樹・畑作物等対策委員長
- ・参議院 農林水産委員長 など



農家・農業の未来のため全力で頑張ります



自民党畜産・酪農対策委員会事務局次長として北海道に現地視察に行きました(R7年12月6日)



自民党畜産・酪農対策委員会事務局次長として宮崎県に現地視察に行きました(R7年11月29日)



自民党野菜・果樹・畑作物等対策委員長としてゲタ対策の結果報告を行いました(R7年11月26日)



自民党野菜・果樹・畑作物等対策委員長として鹿児島県に甘味資源作物にかかる現地視察に行きました(R7年11月24日)



JAグループ基本農政全国大会でガンパロウ三唱を行いました(R7年11月10日)



自民党野菜・果樹・畑作物等対策委員長として北海道に甘味資源作物にかかる現地視察に行きました(R7年11月9日)

【令和8年度農林関係予算の決定】

12月25日、自民党食料安全保障強化本部・農林政策調査会・農林部会・農政推進協議会合同会議にて、令和8年度農林関係予算を党として決定しました。当初予算の前年より増額、農業構造転換集中対策の別枠予算の確保、その財源として新たな財源確保となりました。事前に行われた会合で、私は「水活（水田活用直接支払交付金）やグタ（畑作物直接支払交付金）は戦略作物（麦、大豆、飼料作物等）を増産していくというメッセージを出すためにも予算総額は増額すべき」と意見致しました。農業構造転換集中対策期間はまだ続いていきます。来年以降も引き続き、さらなる予算の確保に尽力して参ります。

【食糧法改正の検討】

12月16日、自民党食料安全保障強化本部・総合農林政策調査会・農業構造転換推進委員会・農林部会合同会議が開催され、出席しました。会合では、食糧法見直しの方向性について、農水省より説明があった後、出席議員による意見交換が行われました。

私は、事前に開催された関連会合において、「需要に応じた生産と言っても簡単でない。これまでは地域協議会の枠組みの中で関係者が頭ごすりつけてお願いで何とか取り組んできた。少しでも国や地方公共団体の役割が後退す

るメッセージとなると、この米価の状況では、需要に応じた生産の取り組みが崩れる懸念がある。国や地方公共団体の関与は明確にして発信すべき。」と意見させていただきました。

今後、継続的に議論が行われ、令和8年度通常国会に食糧法改正法案が提出される見込みです。需要に応じた生産が崩れることのないよう、尽力して参ります。

【自民党みどり委員会に出席】

12月17日、自民党環境と調和した持続可能な農業推進委員会（みどり委員会）が開催され、出席しました。会合では、農水省より、みどりの食料システム戦略に基づく取組の進捗状況と今後の展開について説明があり、出席議員による意見交換が行われました。

私は、「今、米の価格が回復基調で生産者が勢力的に頑張ろうという中で、もう一つ先の有機や環境配慮の取り組みを行うのは、難しい面がある。今後、幅広い生産者が有機や環境配慮の取り組みにつなげていくための手順や方向性を打ち出して欲しい」と意見させていただきました。



▲12月17日 自民党みどり委員会で意見

現場と共に

【食料安全保障強化本部・総合農林政策調査会・農林部会・農政推進協議会合同会議に出席】

12月25日（木）に開催された合同会議に出席しました。議題は、令和8年度農林関係予算についてです。

宮下総合農林政策調査会長のご挨拶の後、鈴木農林水産大臣より大臣折衝の結果についてご報告がありました。当初予算について、農業構造転換の推進に必要な別枠予算に関し、日本中央競馬会による財源拠出をふまえ、昨年度から250億円増額の494億円の予算とすることとなりました。

鈴木大臣には片山財務大臣との折衝を経て、農業構造転換に必要な予算を確保いただきました。今回確保いただいた予算は、しっかりと活用する必要があります。措置された事業を周知活用することにより、構造転換をすすめていかなければなりません。農林水産省には施策の農業現場への周知をお願いしたいと思います。

【JA経営マスターコースの皆さんと懇談】

1月14日（水）に、JA全中が運営しているJA経営マスターコースの皆さんが参議院議員会館までお見えになり、お話をさせていただきました。

JA経営マスターコースは、JAグループが持つ産業組合学校以来の人材教育の精神を受け継ぐ、四半世紀以上

にわたって運営されている幹部職員育成機関です。協同組合としての使命と地域に根ざした経営理念を理解し、地域課題を踏まえた戦略立案と事業展開を担う、基幹的人材の育成を目的としているそうです。つまり、本日お見えになったJA経営マスターコース生の皆さんは、将来の幹部候補!!

本日は私の問題意識を、拙い説明ではありますが聞いていただきました。質疑応答では鋭い質問をいくつもいただきましたが、それぞれ答える中で、私自身、大変勉強になりました。

【JAみやざき参議院議員東野ひでき国政報告会に出席】

1月16日（金）に開催された「JAみやざき」参議院議員東野ひでき国政報告会に出席しました。本店から宮崎県下にWEB中継され、計500名もの方に参加していただいたとのこと。貴重な機会をいただき、ありがとうございます。私からは直近の農政課題等に触れつつ、国政報告をさせていただきました。質疑応答もあり、現場における課題について教えていただきました。



▲JAみやざきでの国政報告会の様子

八代総支部だより

県下には十一の総支部がありこの活動状況を毎月順次紹介していきます。

今回は、「農政連八代総支部」(山住昭二総支部長・JAやつしろ組合長、嶽本秀之事務局長・JAやつしろ共済部長)を紹介します。

八代総支部管内は、熊本県南部に位置し、全国有数の農業が盛んな地域です。干拓事業によって広大な八代平野ができ、球磨川や氷川といった清流が潤し、肥沃な大地になっています。管内で生産されているブランド「はちべえトマト」、「豊の原料」い草、「世界最大の柑橘類としてギネス登録されている「晩白柚」は生産日本一を誇ります。

その他にも「イチゴ」や「メロン」などの施設園芸、干拓地のミネラルを多く含んだ「露地野菜類」全国有数の産地にも数えられる「生薑」、県内でも最も古い歴史を持つ「吉野梨」などバラエティ豊かな農産物を、全国各地へ出荷しています。

●地域農業のPRについて

当組織では、地域農産物のブランド力向上を目指し、行政等と連携しPR活動を行っています。

山住昭二組合長が会長を務める熊本県い業生産販売振興協会による政府官邸訪問にて、当時の岸田文雄首相に日本一の生産量を誇る八代特産のい草を使用した畳ベンチや、岸田前首相の顔があしらわれたい草タペストリーの寄贈をしました。岸田前首相は畳に触れると本当に心が癒される。新しい発想で、日本の伝統文化である畳が世界中で愛用されるよう頑張っしてほしいと語られました。

他にも特産品である晩白柚や吉野梨は中華圏では「丸く黄色く大きいもの」



▲岸田文雄首相(当時)へ畳ベンチとタペストリーを贈呈

が縁起物として好まれており、行政、工商业者などと連携し、香港や台湾への出荷を長年続けています。



▲香港に向けて晩白柚の出発式を開催

●災害復旧に向けて

令和7年8月、豪雨災害が熊本県を襲い、当管内でも広範囲におよぶ水害により多くの田畑が浸水し、定植前に準備されていた苗の枯れや生育不良、設備・農機具の損害と農業にも甚大な被害を及ぼしました。

地域農業の早急な復旧と営農再開のため、熊本県選出の国会議員もいち早く現地視察を行い、被害状況を確認、対策に着手されました。当組織においても、行政機関と連携し、補償制度の拡充などの



▲8月の豪雨でハウスが冠水

要望に取り組みました。国行政等による迅速な対応の成果もあり、営農再開も円滑にできています。



▲国会議員等による被災地視察の様子



▲国会議員等へトマト苗の掘害状況を説明する生産者

●八代総支部の概要

正組合員戸数……………4,964戸
八代総支部長……………山住昭二
部会、利用組合等……………43団体

「2025くまもと協同組合」

「コンベンション」を開催

J Aグループ熊本や熊本県生活協同組合連合会など11団体で構成する熊本県協同組合間提携推進会議(事務局 J A熊本中央会)は12月17日、合志市のJ A熊本教育センターで「2025くまもと協同組合コンベンション」を開催し、県生協連や県漁連、J Aグループ熊本などの役員員78人が参加しました。



▲講演するJCAの比嘉専務

日本協同組合連携機構(JCA)の比嘉政浩専務より「協同組合間連携とY C2025の取り組みについて」と題して講演をいただき、全国や各都道府県における国際協同組合年(ーY C

2025)の取り組みについて紹介いただきました。

また、各構成団体がそれぞれの団体で行っている活動報告や事業内容などの紹介を行いました。

同推進会議の宮本隆幸会長は「協同組合の存在意義を再認識し、相互理解や連携を深めてほしい」と挨拶しました。



▲活動紹介の様子

JA経済連

第50回J A植木まつりを開催

熊本に春の訪れを告げる緑の祭典「第50回J A植木まつり」が1月24日から2月23日まで、合志市の熊本県農業公園カントリーパークで開催されました。今回は50回目という節目の開催。

この催しは、県内農家が丹精込めて生産した良質・低価格な庭園用樹木や庭園、特産物などを直売するもので、毎年多くの来場者で賑わいます。県内J AとJ A熊本経済連が消費者とのふれあいの場を提供することで、緑化事業の振興・発展とJ Aにおける特産品づくりの振興を目的とし、毎年開催しています。

開会式には、行政やJ Aグループ関係者が出席。主催者を代表し、経済連の丁道夫代表理事会長が「J A植木まつりも記念すべき第50回を迎えることができました。皆さまへの感謝の思いを込めて様々な催しも用意している。会場内で春の訪れを実感してほしい」とあいさつ。オープンと同時に多くの来場者が詰めかけ、活気に包まれました。会場では50回を記念した華やかなモニュメントが迎え、フォトスポットとして人気を博しました。

今年もマツや果樹苗などの庭木をはじめ、ビニールハウスでは多肉植物などの多彩な商品が並び、趣向を凝らした庭園、地域自慢の特産品なども販売しました。期間中は、フラワーアレンジメントなどの体験教室や、抽選で賞

品が当たるスタンプリー、来場者参加型のチャリティーオークションに加え、今年から県内J A直売所と連携し豪華賞品が当たる「熊本のうまかもんキャンペーン」を展開するなど50回の節目にふさわしいイベントも目白押しでした。



▲開会式でのテープカットの様子



▲大盛況の茶用センターブース

水前寺成趣園の清掃活動を実施

自分たちの手で熊本の街を綺麗に

J A共済連熊本では12月13日（土）、熊本の代表的な観光名所である、水前寺成趣園（水前寺公園）の清掃活動を行いました。

この清掃活動は、地域貢献活動の一環として平成19年から毎年実施しているもので、同園での清掃活動は9度目となります。

開門前の午前7時30分に集合した役員約120人は、出水神社・正面広場班、梅散策路班、桜散策路班と3つの班に分かれて、園内散策路等に散った落ち葉を熊手

やほうきを用いて丁寧に拾い集めました。



寒い中での清掃活動ではありませんが、全員で協力し最後は体が温まり、無事に公園の開門前には清掃を終了させることができました。

J A共済連熊本は、これからも共済事業と地域貢献活動を通じて、地域との絆を強化し、豊かな環境づくりに貢献していきます。



▲水前寺成趣園での清掃活動の様子

女性組織活動の活性化と

部員意識の高揚を高める

J A熊本県女性組織協議会とJ A熊本中央会、家の光協会は12月16日、熊本県立劇場で「令和7年度J A熊本県女性大会および家の光大会」を開催しました。

当日は、女性部や青壮年部、J A役員など関係者約750名が参加しました。

開会にあたりJ A熊本県女性組織協議会の喜多川容紫子会長は、「8月に熊本で発生した豪雨災害で被災し、困難な状況の中でも、女性部は互いに手を取り合い、復旧・復興へ向けて前を向いて進んでいます。今年は環境と暮らしを豊かにしていく取り組みとして、廃食用油回収リサイクルプロジェクトを始めました。今後お互いに学び合い、支え合い、元気に活動を続けていきたいと思います」と挨拶しました。

組織活動体験発表では、「私たち女性部員が目指すもの」と題して発表したJ A熊本市女性部の渡邊和代さんを、記事活用体験発表では、「私たちの道しるべ：『家の光』」と題して発表したJ Aあまくさ女性部の末永己記子さんをそれぞれ最優秀賞に選びました。

また、今年フレッシュミズの作文コンクール発表で「わたしとフレッシュミズの成長」と題して発表したJ Aあしきたの市川佳さんが最優秀賞に選ばれました。

最優秀賞に選ばれた渡邊和代さんは、令和8年度九州大会に、末永己記子さんは令和8年2月に福岡県で開催される全国家の光大会に熊本県代表として出場します。

第49回ちやぐりん読書感想文で優秀賞を受賞した小松蒼空さん（八代市立東陽小学校3年）、井上理莉さん（八代市立日奈久小学校3年）が作文を朗読しました。

記念講演では、武雄市レクリエーション協会会長で上級レクリエーションインストラクターの森恵美氏が「こころを元気にするJ A女性部活動」が「町まるごと大好きを発信」と題して、心を豊かにするための取り組みについて語られました。



▲最優秀賞に選ばれた末永己記子さん(左)市川佳さん(中央)、渡邊和代さん(右)

地産地消は、あなたにも、

地域にもいいこといっぱい。



地域で生産したものを地域で消費するのが「地産地消」。
その積み重ねが「国消国産」になります。

私たちの国で消費する食べものは、
できるだけこの国で生産する



- 地域でとれたものを食べる
- JA直売所で買う
- 売り場で国産を選ぶ
- 外食の時に国産食材を使っているお店を選ぶ

それが「国消国産」を進めるために私たちができること。「地産地消」と「国消国産」が、日本の食と農業の持続につながっていきます。

webでも
ぜひご覧ください！



JA全中
国消国産ページ



JAグループ熊本
ホームページ



耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ

熊本の気候にあった JA HOUSEの家づくり

自然素材に包まれた愛着の持てる家になる



- ◆ 家計に優しい「W断熱」
- ◆ 優れた調湿効果「オール漆喰」

健康とデザインを考えた理想住宅

JA HOUSE

(株)エコーブ熊本 住宅事業部
TEL:096-344-6340
熊本市北区高平2-25-57
http://www.ja-house.jp/



まさか！ が頻繁に 起こる国 日本。

熊本地震以降震度5弱以上の地震

144回



【共済】は「助け合い」。地震などの自然災害が多発するなか、真価が発揮されています。

平成28年4月 東日本大震災	【共済金支払】 685,832件9,384億円 うち家財 97,080件 1,031億円	平成28年4月 熊本地震	【共済金支払】 94,228件1,487億円 うち家財 11,519件 122億円	令和8年1月 熊直半島地震	【共済金支払】 123,386件1,522億円 うち家財 15,877件 98億円
-------------------	--	-----------------	---	------------------	---

建物更生共済



建物更生共済



くらの保障、相談するなら



資料請求はこちら



JA 熊本市 ☎096-372-6879	JA 熊本 ☎0968-41-5133	JA かわかき ☎096-234-5227	JA あきた ☎0966-82-2352	JA あまくさ ☎0969-22-1103
JA たまな ☎0968-72-5509	JA 菊池 ☎0968-23-3510	JA 熊本3 ☎0964-34-3372	JA くま ☎0966-38-4062	JA りんはく ☎0969-35-0010
JA 大 浜 ☎0968-76-2121	JA 阿 蘇 ☎0967-22-6120	JA やつしろ ☎0965-35-3051	JA 本荘五 ☎0969-23-2231	2543999036

発行／熊本県農業者政治連盟

- 熊本市中央区南二反畑町2-3 電話 096-333-6880・12884
- 編集責任者／中村 隆宏
- 発行日／令和8年2月15日毎月1回15日発行
- 定価／1部50円(但し会員の購読料は会費の中に含む)

今年のお正月は寒かったですね。初詣に行きました。参拝するまでの長い行列に1時間も並び続けました。お参りをしておみくじを引くのが恒例となっていますが、今年は「未吉」でした。大吉から始まって最後の方に近い運勢で、ちょっとがっかりしました。(順番は地域によって違いますが)大吉・中吉・小吉・吉・未吉・凶・大凶の順で覚えています。おみくじの値段が上がっていました。いつも100円のおみくじを買ったのですが、今年は200円になっていました。おみくじの中に七福神が入っているものがあります。金色の小さな置物です。この七福神の出身地は3ヶ所あり、大黒天と毘沙門天、弁才天がインド、布袋と寿老人、福祿寿は中国、そして恵比寿が日本の土着信仰の神です。

仕事初めの日、別の社社でリベンジすると大吉でした。今年も運気がよかったです。

「好奇心」



撮影：大崎 貫之 様

第13回 未来に伝えたい農業・農村の風景
フォトコンテスト入選作品

あとがき